

協創インターンシップ「観光・旅館業の人的資源管理を考える」

団体名●信川ゼミナール2年生／代表者名●信川景子(短期大学部准教授)

はじめに

石川県信用金庫協会と金沢星稜大学の連携協定に基づいて、金沢信用金庫と山中温泉お花見久兵衛に協力を頂き、旅館の人材育成に関するアクティブ・ラーニング(課題解決型学習)を実施した。

信川ゼミナールでは、1年生後期から経営を支える人的資源管理、特に人材育成に関する有効な施策について学んでいる。今回の活動目的は、学生が地元の旅館が直面している人材育成の課題に取り組み、地域活性化に必要な人材育成施策を検討することである。旅館を含め観光産業は恒常的な人材不足であり離職率も高い。人材育成を見直し、人材の蓄積を進めることは地域づくりにおいても重要な課題である。

活動内容

9月10日～12日までの3日間、山中温泉旅館「お花見久兵衛」にてアクティブ・ラーニングを実施しゼミ生9名が参加した。1日目は、お花見久兵衛の経営陣より旅館業の概要、観光や経営に関するレクチャーを受けた。特に人材育成に関する取り組みや課題についてお話を伺い、事前に準備した質問に対する回答も頂いた。2日目は、収集した情報や課題を考察し、3班に分かれて人材育成に関する提案施策を作成した。3日目には、各班が施策のプレゼンテーションを行い、お花見久兵衛、金沢信用金庫の方々から講評をいただき、討議を重ねた。

学生の提案施策

- | |
|---|
| ①「人材蓄積に繋がる内部環境の形成」
休館日の見直し等、内部環境整備に関する施策 |
| ②「研修内容の再検討と効果的手法」
専門的能力の重要性と育成手法に関する施策 |
| ③「集合研修の採用効果と地域活性化」
地域を活かした研修、異企業交流の施策 |

成果、結果の考察

実際の経営現場からお話を伺い、地域や旅館業が抱える人材確保と育成の課題、また関連するインバウンド対策や地域交流の重要性等も深く学ぶことができた。学生にとって、これまでに学んできた知識や

理論が実践知として落とし込めた有意義な経験であったと考える。

また、観光産業の人材蓄積は、地域社会の次世代を担う人材の確保にもつながる。地域社会の一員である学生自身がその課題に取り組み、危機感や重要性に気付いたことは意義があったと考える。

今後の課題、展望

来年度のゼミ活動においても、地元企業の人材育成に関する取り組みについて考察を継続していく。

また、観光産業のみならず地域社会の企業が抱える人材の課題についても検討していきたいと考えている。

(関連記事掲載：北陸中日新聞 2019年9月13日朝刊 16面)

